

秋の D-1 (だじゃれワン) グランプリの練習会が開催された時期からは、だじゃれを楽しんで作品にする学年が増え、1月の校内 D-1 グランプリは盛り上がりを見せた。

③国語力集会と『聞く聴く名人への道』の活用

今年度は国語力集会が毎月行われた。体育館に入場前に聴き方の自己目標を立て、集会で校長の話の聞き、教室でふり返りを書くという流れが主な活動であった。



教師は、『聞く聴く名人への道』を活用し、子どもたちが自分の聴く態度の段階を意識し、より具体的な目標を持って集会に臨めるよう促した。

しかし、発達段階によっては、子どもたちが明確に目標を持つことが難しかったり、表自体がかなり長いスパンで聴く力を育てていくことを前提としたものであると考え、『聞く聴く名人への道』の表そのものをより使いやすい物へ改良する必要性を感じた。

④聴く力の指標作成

『聞く聴く名人への道』の表だけでなく、目指す子どもの実態をより具体的にするために、「話す・聴く力の指標」作成に取りかかった。こころづくり部の行動指標と同様、3つの視点で A を望ましい姿、C をなくしたい姿として作成をすすめてきた。3つの視点とは、「聞く」「思いを持つ」「話す」である。低・中・高学年に分け、発達段階や実態、国語の指導要領の目標などを総合的に考え合わせた。

しかし、完成には至らず、学年部間の調整、具体的な活用方法については、来年度への課題として送ることとなった。

3. 家庭との連携

①『家庭学習のすすめ』配布

学力の定着には家庭学習も大変重要であり、各家庭の協力が必要不可欠である。家庭学習の習慣が定着するよう『家庭学習のすすめ』を作成し、配布した。

表は保護者向けの文章で、家庭学習の重要性と協力を呼びかけており、裏は子どもが毎日参考にできるような内容になっている。

一度配布し親子で目を通した後、親子で話し合っって学習開始時刻を決め、記入し、担任へ提出した。担任はチェックし再配布した。

子どもたちには、家庭学習の重要性と表の活用法をオリエンテーションの時間をとって説明し、よく見える場所に保管するよう言って配布した。

